

傾げる。

難儀 むづかしい 悩む

何度 何遍 またー いくら。

何月何日 いくつー月 何ーいくつ

右の手で「いくつ」即ち右の手の親指より順に折って行って、(4) の月を表わして、その下に更に「いくつ」を手まねする。この場合、「月」の表現を省いてよい。右の手を上、左の手をその下にして、同時に「いくつ」をすればよい。勿論上の右の手は月を下の左の手は日の心得。

○三月五日 三ー月(4)ー五。また、「月」を省いて、右手で「三」を表わし、その下に左手で「五」を表わす。

○元旦(一月一日) 一ー月一ー。または一ー一。

二

似合う 「適する」 「叶う」と同じ手まね

課やか 「公園」と同じ要領で表わす。人

々の往来はげしいこと。

憎む 肘をたてに曲げてた手を強く握り拳

にして、空間を叩たくように運動さしながら

前に突き出す。

肉身 頬肉を人差指と親指で二度ばかりつ

まみ、二指の指頭を合わせて前方へ引き出す

逃げる 「脱走」と同じ手まね。

虹 右手の掌を下に向け指頭を左にさした

親指と人差と中指の三指(七の数即ち七色)

で左から右へ弧を描く。

贗物 嘘造るー物(いろいろ)

日限 約束ー何月何日

日常 普通ー毎日

日没 「黄昏」と同じ。

日曜日 左の掌の上へ右の手甲を上にした拳をぼんと叩たき降す。

日光 太陽―照らす。

日当 一日(終日)―骨折―収入。

二倍 「一層」「その上」と同じ手まね。

二枚舌 右手の掌を左側にし指頭を上にした人差指と中指。人差指の方を口唇に十字

につけてから、くると掌を内側にして二指共に口唇につける。

荷物 (イ) 荷物を片手に掲げる身振。(ロ) 荷物を背負う身振。

入学 「学校」の手まねをして、「就職」

と同じ要領、即ち左手掌の上に五指の指頭を集め合わせた右手のその指頭をつけ、両手をそのまま前へ出す。

入費 必要―金銭

似る 同じ―ような。

二塁手 「一塁手」と同じ要領で右手の人

差指で「二」を表わす。

庭 「庭園」と同じ手まね。

鷓 五指の指頭を上にしたし掌を左側にした右手の親指の指頭を額につけ、五指の指頭を上にしたし掌を右側にした左手の親指を額につけ(右手は鷓のとさか)―鳥

俄かに 「急に」と同じ手まね。

認可 「許可」と同じ手まね。

人氣 男性或は女性を表わしたその位置に向って、掌を下に向けた五指をさし両面をそれへ集めて行く。人々の注意、人氣が集まるの意。

人間 人 「人間」「人」と云う人格的觀念の場合、人差指で「人」と空間に文字を書くがよい。これは文字とは云え、模写身振の手まねである。また、右の人差指と左の人差指で、「人」の文字形に交り合わせるがよい